

ミズスギナ *Rotala hippuris* Makino

【選定理由】

全国的に減少傾向が著しい低地性の水草で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

挺水性の多年生草本。茎の基部ははい、上部は直立して円柱状、下部から枝を分け、高さ3~10cmになる。葉は5~12個輪生し、沈水葉は糸状線形、先端は短く2裂し、長さ2~3cm、水上葉は線形、先端は切形で、長さ0.5~1cm、幅0.6~1mmである。花期は9~10月、花は水面上に伸びた部分の葉腋につき、無柄、白色、がく筒は鐘形で長さ約0.6mmである。蒴果は球形で直径1.5mm、赤色をおびる。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美(江比間, 井波一雄 s.n., 1951-11-3, CBM157440)、東海知多(知多市七曲り池, 相羽福松 866, 1980-9-23)、春日井(神領町四ツ池, 飯尾俊介 25, 1964-9-29)、名古屋北部(田代村猫ヶ洞, 森貞次郎 s.n., 1906-9-2, TI)で採集された標本がある。

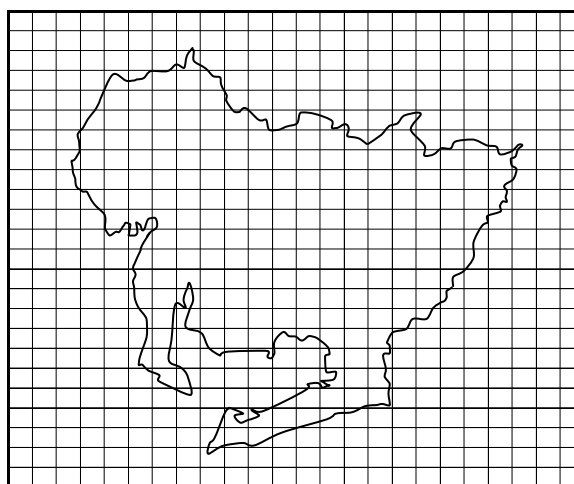
【国内の分布】

本州(関東地方~近畿地方南部)、四国、九州に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

水のきれいな浅いため池に生育する。水田に生育することもあるという。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【過去の生育状況 / 絶滅の要因】

注意して探索している植物の一つであるが、現存を確認できない。水質の汚濁が絶滅の原因と思われる。東海知多のものは、研究者個人の手で栽培条件下で系統保存されている。

【保全上の留意点】

丘陵地のため池に残存している可能性は皆無ではない。注意して更に探索する必要がある。系統保存されているものについては、一刻も早く公的な体制を整備し、将来にわたって保存できるようにすべきである。

【特記事項】

本種は原産地のはっきりしたものが十分な注意のもとに系統保存されているため、厳密には「野生絶滅」である。

【関連文献】

保草本 p.47、平草本 p.261、SOS旧版 p.65、環境庁 p.315。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.120. 文一総合出版, 東京。